

有限会社多田プレシジョン

■平成24年度テーマ

高精度放電加工機導入による医療機器部品の形状複雑化、短納期の対応強化

■平成24年度概要

医療機器部品の加工においては、個々の患者さんや医師に適合した形状のオーダーメイド対応が必要になってきている。これを高精度放電加工機を導入して、顧客の望む複雑な形状と納期を実現することで、医療機器部品市場の参入を目指す。

■平成24年度分類

- ＜事業類型＞ 設備投資のみ
- ＜競争力強化の形態＞ 小口化・短納期化型
- ＜22分野技術＞ 切削加工

■事業の概要と成果

今回、新設備を導入したことで、当社の保有している技術の一部の可視化が可能になり、既存のお客さんからはこれまでの案件に加えて高度化したものが受注できるようになった。厳密な数字は算出できないが、感覚的には高度化案件で既存案件に約10%付加したと推測される。また、まだ受注には結び付いていないが、これまで取引のなかった企業からも今回の設備導入に伴い、1件の問い合わせを受けた。

■平成25年度テーマ

5軸マシニングセンタ導入による金型と高精度加工部品の生産能力強化

■平成25年度概要

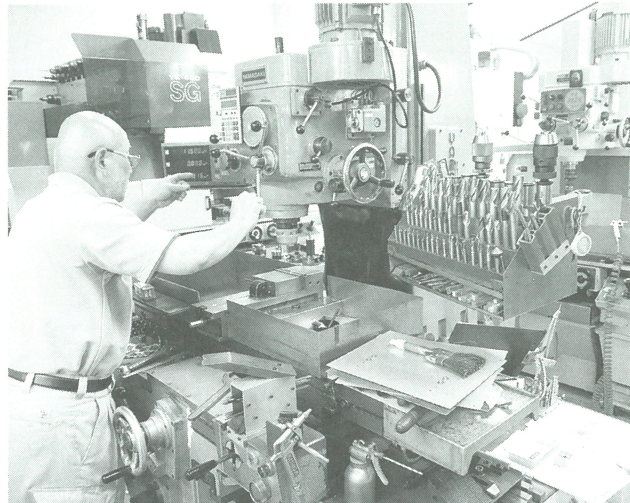
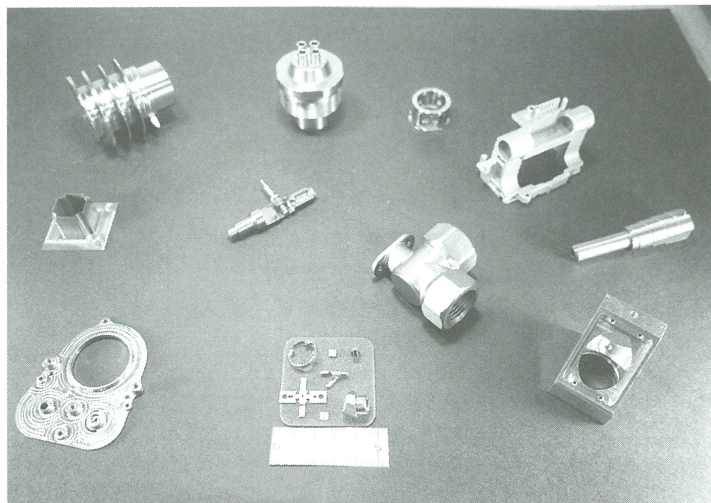
5軸制御のマシニングセンタの導入により、金型や試作部品の「加工精度向上」「段取削減による生産性向上」「加工・固定治具製作数の減少による生産性向上」などを実現し、生産能力を強化することで、高付加価値加工部品の受注増加に取り組む。

■平成25年度分類

- ＜対象類型＞ 【ものづくり技術】
精密加工
- ＜事業類型＞ 一般型
設備投資のみ

■事業の概要と成果

本事業で導入した5軸のマシニングセンタを使用した結果、加工部品の表面粗さが大幅に改善され、加えて「固定治具の設計・製作」「段取り替え」等の工数を大きく削減することができた。これにより、これまで以上に高品質な部品の短納期で提供することが可能となった。今後、生産効率の向上に伴う新規受注増加分、及び加工を辞退していた案件の取込みを合せて、年率20%の売上増加を見込む。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて
有限会社多田プレジジョン（安曇野市）

「みんな脇役、みんな主役」
技能と技術の両輪で高精度なもののづくりを極める。

全国で高く評価される超精密加工部品

安曇野の美しい田園風景の中、豊かな木々に囲まれるようにして土蔵造りの和風建築が立っています。一見、昔からの大きな農家。しかしモニュメント風の看板に導かれて中に入ると、そこは超精密部品の加工工場でした。

金属切削加工をコア技術に、治工具の金型試作、工業用ロボットや医療器具など精密機械の高精度部品を中心に手がける、多田プレジジョン。マシニングセンター、NC旋盤から汎用機までさまざまな加工機から、3次元CAD、非接触CNC画像測定機まで、工場内には所狭しと各種機械が並びます。

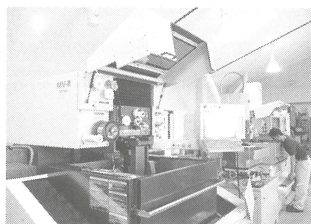
「どんな難しい注文も断りません」。多田勲社長のものづくりのプロとしてのこだわりから、オーダーは単品からと、文字通りの多品種少量生産です。現場で長年にわたって積み重ねてきた技能と、コンピュータを駆使した最先端技術との両輪で、1000分の1ミリ単位の精度を追求。つくり出す超精密加工部品は全国でも高く評価されています。

掲げるスローガンは「みんな脇役、みんな主役」。社員一人ひとりが手がける製品一つひとつが、同社の技術とものづくりの姿勢を雄弁に語っています。

同社はものづくり補助金を活用して高精度ワイヤ放電加工機を導入。医療機器部品の形状複雑化と、納期短縮への対応をさらに強化しました。

「元気・やる気・スピード感」を持つ技術者を育成

「金属加工でも、建築やエクステリア、看板でも、それをつくる職人の技にはそれぞれこだわりがある。それを見せることが社員教育につながっているんです」



高精度ワイヤ放電加工機を導入



工場内に所狭しと並ぶ加工機械

古民家風の工場づくりにこだわった理由を熱く語る多田社長は、フライス盤作業、金型仕上げ作業など4種目の1級技能士。半世紀以上にわたり金属加工一筋に磨き上げてきた職人技により、平成21年厚労省「現代の名工」に選ばれました。

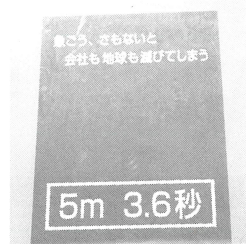
「私の技能を後世に伝えたい。そのためにはつねに現役の職人として、生の技を伝えていかなければだめだ」と多田社長。若手を中心とする7人の社員を頼もしそうに見つめながらも、時に大声で厳しい言葉を飛ばします。機械に向かう姿勢から加工製品の持ち方、加工面の旋盤への当て方まで、若い社員には現場で毎日徹底したマンツーマン指導を繰り返しているのです。

その場で軽々と腕立て伏せを繰り返す多田社長。その強靱な身体は70歳の今も会社をあげて楽しむソフトボールの賜物でしょう。全身全霊でのづくりに立ち向かう厳しく細かい指導により、



社長自ら手本を見せる

技術・技能、ものづくりの精神を伝え、基礎体力（元気・やる気・スピード感）を持った優秀な技術者の育成に力を注いでいます。



工場床に貼られている



有限会社多田プレジジョン

代表者 代表取締役 多田 勲
創業 1986（昭和61）年5月
資本金 300万円 従業員数 7人
本社 安曇野市三郷明盛3680

事業内容 各種省力自動機械・治工具・金型試作、超精密部品加工・組立

